

深読み

長内 智

(株)大和総研  
金融調査部  
主任研究員

## 証券投資の羅針盤

### 4 日本株投資で押さえておきたい3月の配当金相場

#### 配当金重視の個人投資家も多い

##### ■事前に配当金の見通しを確認

投資家は、株式を保有することにより、企業の稼いだ利益の一部を「配当金」という形で受け取ることが可能です。個人投資家の中には、配当金収入を得ることを重視して、株式投資を行っている人も多くいます。

配当金は、資産を保有することで得られる収入という点で、預貯金・社債の利子や不動産の家賃収入とともに「インカムゲイン」と位置づけられます。これらは労働の対価である給与所得と異なり、働かずに得られる収入であるため、「不労所得」といわれることもあります。

ただし、配当金を支払わない無配企業が存在することには少し注意が必要です。例えば、大幅な赤字を記録するなど業績が非常に厳しい企業は配当金を支払う余裕もなく、このような企業は、金融・経済ショック時に増加します。また、十分な利益を出していても、それを成長のための投資に回すといった経営判断などにより、無配とする企業もあります。

今後の配当金の見通しについては、あらかじめ企業の「決算短信」で示されている配当金（予想）に加え、投資情報誌やアナリストによる予測値を確認しておくのがよいでしょう。

##### ■上場企業は3月に決算期が集中

日本の上場企業は、基本的に年1～2回の頻度で配当金を支払います。数は非常に少ないも

の、年4回支払う企業も存在します。

配当金は、企業の決算期に併せて決まり、年2回支払う企業の場合、第2四半期決算と本決算の後に支払うことが一般的です。企業ごとに異なりますが、投資家が配当金を受け取るのは、通常、決算期末から約2～3か月後となります。

また、日本では上場企業の決算期が3月に集中しているため、毎年この時期は配当金の話題が多くなります。なぜなら、3月決算企業の配当金は「権利確定日」（通常、月末）時点で株主名簿に登録されている必要があり、投資家は株式売買を行う際、それを意識するためです。

配当金をねらって新規に株式を購入する場合、遅くとも権利確定日の2営業日前の「権利付最終日」に購入しておく必要があります。その翌日に株式を購入しても、配当を受け取る権利は得られません。また、すでに保有している株式を権利付最終日若しくはそれより前に売却すると、配当金を貰えなくなるので、うっかり売却してしまわないように気をつけてください。

#### 株式の配当金相場のポイント

##### ■権利付最終日前後のパターン

配当金の権利付最終日の前後は、株価が一定の変動パターンを示すことがしばしばあります。そのため、①実際の権利付最終日、②代表的な株価の変動パターンについて、事前に確認しておくのがよいでしょう。

まず、権利付最終日は、権利確定日（通常、

月末)の2営業日前であり2023年3月の権利付最終日は3月29日となります。

次に、代表的な株価の変動パターンとして、権利付最終日に向けて株価が上昇し、その翌日(権利落ち日)に株価が下落することがよく知られています。これは、主に配当をねらった買いが株価を押し上げる一方、配当権利落ちに伴い、配当相当分だけ理論株価が下落するというメカニズムによるものです。

「論より証拠」ということで、実際に、2022年3月における企業A社の株価推移を確認してみましょう。この企業は、3月決算で本決算の配当金は1株当たり50円です。

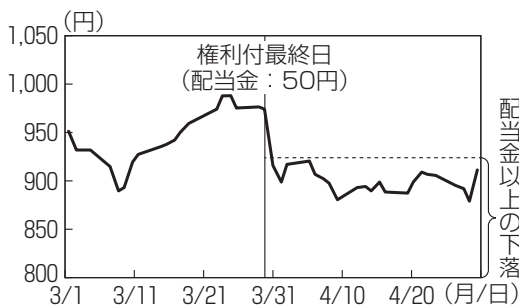
企業A社の株価は、3月半ばから権利付最終日に向けて上昇傾向となり、その翌日に大きく下落していることがわかります(図表)。

### ■配当金を避ける投資戦略

もっとも、株価はさまざまな変動要因に左右されるため、2022年3月の企業A社のように、きれいな変動パターンを示すとは限りません。あくまでも、権利付最終日前後の代表的な変動パターンにすぎないと理解しておいてください。

加えて、権利付最終日の翌日以降に、株価が配当金以上下落するケースがあることも重要です。この場合、配当金を受け取る権利を得ずに、株価が下落した局面で株式を購入するほうが投資リターンは大きくなる場合もあります。実際、配当金を避ける戦略をとる個人投資家もいます。

【図表】企業A社の株価推移(2022年)



(出所) Bloombergより大和総研作成

## 相場の格言

### 利食い千人力

#### ■適度な利食いが賢明

利食いとは、保有している株式や投資信託などの金融資産に含み益が出ているところで、利益を確定させることです。通常は、買いポジションの人のほうが多いと思います。その場合、利食いを行う際に保有資産を売却することになるため、「利益確定売り」又は「利食い売り」という表現が使われます。

そして、相場の格言の「利食い千人力」とは、投資において、含み益の状況を維持し続けるのではなく、適度に利益確定売りを行うことが賢明という意味です。

具体的なメリットとして、含み益は相場の変動次第ですぐに吹き飛んでしまう可能性があるため、適宜利益確定売りをし手元資金を増やしておくことで、相場の急変動に備えられるという点が挙げられます。

株式の配当金相場においても、この格言が参考になります。例えば、権利付最終日前に利益が乗っているものの、その後、配当金以上に株価が下落して含み益が減ってしまうのではないかと悩んでしまうケースです。この場合、「利食い千人力」を思い起こして、利益確定売りを検討してみるとよいでしょう。

#### ■利食い後の株価上昇への対策

ただし、利益確定は、損切り同様に、その後の投資家心理に影響を及ぼするという点に注意してください。特に利益確定した株式がさらに上昇した場合、多くの方は、売らなければよかったと損した気持ちになると思います。

こうした心理的な影響を緩和するための投資方法としては、利益確定売りを保有株式の全部でなく、一部にとどめることが挙げられます。その割合は、1割でも2割でも、自分の納得のできる割合であれば構いません。